

2019. 9. 24

日米共同訓練（Orient Shield '19）への参加

第16普通科連隊は、9月に熊本県にある大矢野原演習場において日米共同訓練を行いました。その概要についてお知らせします。

1 日米共同訓練（Orient Shield '19）とは

陸上自衛隊が行う日米共同訓練のひとつで、国内で行われる日米共同訓練です。今回は、特科部隊が主体の訓練とその作戦のための基盤を確保するために、第16普通科連隊と米陸軍第106騎兵連隊第2騎兵大隊（戦闘隊）が、大矢野原演習場（熊本県）において共同作戦を行いました。

2 共同訓練を行う米陸軍第106騎兵連隊第2騎兵大隊とは

米国イリノイ州の州兵で殆どの兵士は予備役です。予備役は、普段は他の仕事をもっています。例えば、高校の教師、警察官、会社員等々。

予備役と聞くと、陸上自衛隊の即応予備自衛官を想像するかもしれませんが、常備とほぼ同じです。彼らは、訓練を積んで、アフガニスタンやイラクなどにも派遣されます。また、州兵ですので、イリノイ州で災害が発生し軍が出動する際は、彼らが招集され出動します。共同訓練を行いました。非常に高い練度を保持しています。

3 訓練

8月26日～9月1日までは、部隊の受け入れを行い、9月2日の訓練開始式から9月23日の訓練修了式まで訓練を行いました。

訓練期間中に報道公開があり、日米の射撃訓練の状況について取材がありました。熊本県内のTV局と新聞の報道があり、一部はインターネットでも確認できます。

4 訓練の意義

日米共同訓練を行うことにより、日米の共同対処能力の向上を図りました。実際、共同した米陸軍部隊とは、「One Team」と言い合えるまでの関係を構築しました。日米両国の良好な関係にも大きく貢献できたと感じています。

私自身は、約30年近く前の小隊長当時、2回の日米共同訓練に参加しました。その時の経験は、今になっても鮮明に覚えています。本訓練に参加した隊員が、今回の経験を今後の自衛官人生に生かしてくれることでしょう。

5 その他

訓練の状況について写真をホームページ上に掲載しますので、ご覧下さい。

第16普通科連隊長兼ねて大村駐屯地司令 1等陸佐 南 野 延 寿